

- 1：題材 第6学年道徳 「友だちっていいよね」(心のノート)2-(3)
 2：ねらい
 友達同士の相互信頼の下に学び合う活動を通して互いに磨き合い、真の友情を育てることができるようになる。
 異性に対する正しい理解を深め、男女間の友情を育てることができるようになる。
 3：授業の実際(展開と子どもの反応)

学習活動	子どもの反応と教師の支援
<p>1：自分が考える友達像を書く。</p> <p>2：「心のノート」を読んで、友達と向き合い、お互いの理解を深めるとはどういうことかを考え、本当の友達とはどういう人かを話し合う。</p> <p>3：「心のノート」の【紗代さんの思ったこと】を読んで、異性の友達について考える。</p> <p>4：残り少ない小学校生活を男女仲良く過ごしていけるよう教師の説話を聞く。</p>	<p>T：「自分で友達ってどんな人のことを言うと思いますか？」 C：いろんなことを教えてくれる人(15人)一緒に遊ぶ人(27人)悩みを相談できる人(8人)喧嘩している時にとめてくれる人(4人)その他(3人)【重複回答あり】</p> <p>T：「心のノートを読んで、お互いに理解し合える 友達(本当の友達)とはどういう人のことを言う と思いますか？」 C：・落ち込んでいる時に声をかけてくれたりする人・同じ気持ちになって考えてくれる人・自分から何でも悩んでいることを話してくれるし、話す前から気付いてくれる人・自分がないものを持っている人・一緒に遊ぶ人・色々なことを教えてくれる人・自分とは全然違ってしっかりしていて、助けてもらえる人</p> <p>T：「では、今までに会った本当の友達って何人い ますか？」 C：1人(5)・2人(3)・3人(7)・4人(3)・5人(7)・6人(5)・10人(3)・その他(2人)</p> <p>T：「今異性の友達は何人くらいいますか？」 C：いない(6)・2人(7)・3人(5)・4人(5)・5人(9)・10人(1)・20人(1)</p> <p>T：「紗代さんのように、異性の友達がいてよかったと思ったことはありますか？」 C：(男子から) 女子が勉強とかを教えてくれる 女子が注意してくれるので先生に怒られずにすむ 女子がいると掃除が助かる (女子から) 男子が話を盛り上げてくれた時 男子だけだったら授業が進まなかったと思う 女子だったら気を遣って言えないことも男子だったらさりと言えり 1年生の時に女子と遊べなかったら男子が遊びに入れてくれた 笑わせてくれる 重たい物を持ってくれた 女子は細かいことにうるさいしすぐ喧嘩するけど、男子は大きな喧嘩がない。 何かある時先生をすぐ呼んできてくれるので喧嘩が収まる</p> <p>T：小学校時代の思い出(男女関係なく遊んだこと、小学校・中学校とも統廃合され、母校が無くなってしまったこと)を話し、あと40日余りの小学校生活を、男女仲良く過ごし素晴らしい思い出をつくっていかうと呼びかけ本時をまとめた。</p>

4：成果と課題

(1) 成 果

「心のノート」を活用することによって、友達とはどういう関係なのか・男女仲良くやっいてくっていいなということを感じ取らせるきっかけを作ることができた。
 もっと異性の友達は少ないと考えていたが、予想以上に男女仲良く過ごしていることが分かった。また、男子は女子を・女子は男子を必要であると考えている子どもが多かったことは、これからの学級経営にとってとても参考になることであった。
 卒業が近くなって、今のクラスの友だちと分かれたくない・このまま小学校にいたいと思っっている子どもも多く、男女関係なく残りの小学校生活を充実したものにしていきたいと思うようになってきている。

(2) 課 題

まだ本当の友だちとはどんな友達なのか感じ取っていない子どももいて、ただ楽しく遊べばいいと思っている子どもが数名いる。時には意見の衝突もあるが、その中から本当の友達関係が生まれてくるといことが感じ取れるような働きかけをしていきたい。
 男女ともに必要感を感じてはいるが、実際の場面ではどうしてもうまくいかないことが多い。そんな時に今日の感想などを出して、お互いが必要感を感じている事を再確認させていくことで、男女が力を合わせて学校生活を送っていくとする心情を培っていきたい。